



環境活動レポート



大和紙料株式会社



活動期間：平成28年10月～平成29年9月

2017年11月1日作成

◆目次

• 企業情報	-----	3
• 組織図	-----	4
• 環境方針	-----	5
• 環境目標	-----	6
• 環境活動計画の内容	-----	7~8
• 環境目標の実績	-----	9~10
• 取組結果の評価	-----	10~11
• 環境関連法規の遵守状況	-----	12
• 教育訓練実施状況	-----	12
• 廃棄物関係許可取得状況	-----	13~14
• 地域コミュニケーション	-----	15
• 代表者の評価	-----	15

1) 企業情報

《会社名》

大和紙料株式会社

《設立》

昭和24年6月（創業明治9年11月）

《資本金》

9千9百万円

《売上高》 2017年9月期

18,571,094千円

《代表者》

代表取締役 矢倉 義弘

《環境管理責任者》

代表取締役 塩瀬 宣行

《連絡先》

大阪府大阪市大正区三軒家東2-9-10 TEL:06-6551-2231 FAX:06-6551-2238

エコアクション21事務局 担当:齋藤 昭一

《認証登録の対象範囲と活動》

登録組織名:大和紙料株式会社 本社部門 高槻事業部 鳥飼事業所 南港ヤード 東大阪事業所
 京都事業所 東京事業所 神奈川事業所 北九州事業所 グリーンセービング福岡
 唐津リサイクルセンター 平戸リサイクルセンター 熊本リサイクルセンター 名古屋営業所 鹿児島事業所

《事業規模》

2017年度(2016年10月~2017年9月)

※1 取扱量はバン積数量

事業所名	所在地	業種	敷地面積	従業員数	古紙取扱量 (ヤード仕入)	車両台数
本社	大阪府大阪市大正区三軒家東2-9-10	古紙卸売業	3,896㎡	64名	41,729.0t	28台
高槻事業部	大阪府高槻市登町61-1	再生パルプ製造業	5,008㎡	22名	4,747.7t	5台
鳥飼事業所	大阪府摂津市鳥飼西3-10-12	古紙卸売業	4,300㎡	11名	23,347.0t	5台
南港ヤード ※1	大阪府大阪市住之江区平林北2-9-129	古紙卸売業	2,330㎡	4名	61,935.0t	0台
東大阪事業所	大阪府東大阪市古箕輪1-18-6	古紙卸売業	2,200㎡	11名	18,309.0t	6台
京都事業所	京都府八幡市岩田六ノ坪59-1	古紙卸売業	2,200㎡	14名	31,315.0t	19台
東京事業所	埼玉県戸田市美女木8-12-2	古紙卸売業	2,300㎡	13名	11,360.0t	6台
神奈川事業所	神奈川県綾瀬市寺尾南1-5-1	古紙卸売業	1,760㎡	12名	9,205.0t	6台
北九州事業所	福岡県北九州市小倉北区西港町94-4	古紙卸売業	2,000㎡	21名	23,726.0t	15台
グリーンセービング福岡	福岡県糟屋郡新宮町大字立花口字猿渡404-2	古紙卸売業	2,500㎡	12名	15,747.0t	14台
唐津リサイクルセンター	佐賀県唐津市梨川内字河内山1079-106	古紙卸売業	13,444㎡	13名	13,131.0t	12台
平戸リサイクルセンター	長崎県平戸市田平町下寺免361-1	古紙卸売業	1,950㎡	8名	6,315.0t	9台
熊本リサイクルセンター	熊本県熊本市東区御領6-3-50	古紙卸売業	2,645㎡	12名	11,161.0t	11台
名古屋営業所	名古屋市守山区瀬古3-902	古紙卸売業	12㎡	3名	2,477.0t	0台
鹿児島事業所	鹿児島市東開町12番地5	古紙卸売業	1,653㎡	11名	8,105.0t	3台
合計			48,198㎡	231名	282,609.7t	139台

※産業廃棄物収集運搬量	廃プラスチック類	混合廃棄物	木くず	金属くず	ガラスくず	廃電気機械	合計
本社	150.6t	237.5t	0.5t	79.8t	4.4t	0.4t	473.2t
グリーンセービング福岡	35.0t		9.6t				44.6t
積み替え保管の実績	廃プラスチック類	42.3t					総合計 517.9t

2) 組織図



3) 環境方針

環 境 方 針

大和紙料株式会社はその事業活動通じ、地域社会の皆様とともに持続可能な循環型社会の実現に向けて、全社員の一人一人が環境保全活動に取り組むことを誓います。

【具体的な活動指針】

1. 環境関連法規制の遵守

環境関連の法律・条例および当社が加盟する各種団体の規約、またその他一切の事業活動に関わる法規制を遵守し、自社を取り巻く環境の保全、改善に努めます。

2. 環境負荷の低減

- ・ 電気、ガス、水道、ガソリン／軽油などの省エネルギー活動を進めます
- ・ 運搬車両のエコドライブの実施、低公害車への乗換えを進め、環境負荷の低減に努めます。
- ・ 事業活動において市中で排出される廃棄物のリサイクルを促進させることで廃棄物の減量化を進めるとともに、持続可能な社会の実現に貢献します。
- ・ 事業活動の中で消費される全ての物品について、再利用方法の考案、環境負荷の低い商品の導入を検討致します。

3. 地域社会

地域社会との関わりを重視し、地域住民に愛される企業として環境保全活動並びにリサイクル啓蒙活動を行います。

当社はこの環境方針を全社員および関連事業者に周知し、また自社のホームページ上にも掲載し、外部に公表いたします。

2011年10月31日 改定

大 和 紙 料 株 式 会 社

代表取締役

矢倉 義弘

4) 環境目標（2018年度及び中長期目標）

項目	省資源	排水	炭酸ガス		廃棄物		地域社会
			省エネ	電気エネルギーの削減	化石燃料使用量の削減	リサイクル率向上推進、生産効率の向上	
目的	事務用紙使用量の削減	水道使用量の削減、水質汚濁負荷の排水量低減	省エネ		リサイクル率向上推進、生産効率の向上	製紙スラッジの排出量抑制	地域社会に密着した企業
2018年度末目標	2015年度を基準とし全社で用紙使用量3%の削減を行う。	2015年度を基準とし全社で水道使用量3%の削減を行う。	2015年度を基準とし全社で電気使用量及び化石燃料使用量3%の削減を行う。		2015年度を基準とし全社で廃棄物排出量3%の削減を行う。		事業活動等を通じ地域社会との交流を深める。
2019年度末目標	2015年度を基準とし全社で用紙使用量4%の削減を行う。	2015年度を基準とし全社で水道使用量4%の削減を行う。	2015年度を基準とし全社で電気使用量及び化石燃料使用量4%の削減を行う。		2015年度を基準とし全社で廃棄物排出量4%の削減を行う。		事業活動等を通じ地域社会との交流を深める。
2020年度末目標	2019年度を基準とし全社で用紙使用量1%の削減を行う。	2019年度を基準とし全社で水道使用量1%の削減を行う。	2019年度を基準とし全社で電気使用量及び化石燃料使用量1%の削減を行う。		2019年度を基準とし全社で廃棄物排出量1%の削減を行う。		事業活動等を通じ地域社会との交流を深める。

部門別数値目標

部門	年度	省資源	排水	炭酸ガス	廃棄物
本社	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
高槻	2018年度	2016年度	2016年度 ▲2%	2016年度 ▲2%	2016年度比 ▲2%
	2019年度		2016年度 ▲3%	2016年度 ▲3%	2016年度比 ▲3%
	2020年度		2016年度 ▲4%	2016年度 ▲4%	2016年度比 ▲4%
鳥飼	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
南港	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
東大阪	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
京都	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
東京	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
神奈川	2018年度	2017年度 ▲1%	2017年度 ▲1%	2017年度 ▲1%	2017年度比 ▲1%
	2019年度	2018年度 ▲1%	2018年度 ▲1%	2018年度 ▲1%	2018年度比 ▲1%
	2020年度	2018年度 ▲2%	2018年度 ▲2%	2018年度 ▲2%	2018年度比 ▲2%
北九州	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
福岡	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%		2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%		2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
唐津	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%		2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%		2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
平戸	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
熊本	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
名古屋	2018年度	2015年度 ▲3%	2015年度	2015年度 ▲3%	2015年度比 ▲3%
	2019年度	2015年度 ▲4%		2015年度 ▲4%	2015年度比 ▲4%
	2020年度	2019年度 ▲1%		2019年度 ▲1%	2019年度比 ▲1%
鹿児島	2018年度	2017年度 ▲1%	2017年度 ▲1%	2017年度 ▲1%	2017年度比 ▲1%
	2019年度	2017年度 ▲2%	2017年度 ▲2%	2017年度 ▲2%	2017年度比 ▲2%
	2020年度	2017年度 ▲3%	2017年度 ▲3%	2017年度 ▲3%	2017年度比 ▲3%

※高槻事業部は2016年度、鹿児島事業所は2017年度、神奈川事業所は2018年度を基準とする。

5)環境活動の内容

取組	具体的な実施手順	関連項目	部署
両面印刷の推奨	印刷枚数2枚以上の文書は可能な限り両面印刷を行う。	省資源	全部署
裏紙の活用	コピー機及びFAXの横に《回収BOX》を設置し、ミスコピー等を回収する。 ※回収した用紙は商品の古紙に混ぜリサイクルする。	省資源	全部署
PCFAXの利用	PC上の書類等をプリントアウトすることなく直接FAXを行い、無駄な印刷を削減する。	省資源	全部署
不要な紙は再生する	コピー機の横に回収箱を設置、使用済み紙類は当社でリサイクルする	省資源	全部署
グループウェアの導入	グループウェアを導入し可能な限り文書類を電子化し、コピー用紙使用量の削減を図る。	省資源	全部署
ペーパータオルのリサイクル	トイレで使用するペーパータオルを再度リサイクルする。	省資源	本社
節水コマ	水道蛇口のパッキン(コマ)を節水タイプに取り替える	排水水	全部署
節水の呼びかけ	節水を呼びかける掲示を行い、従業員の環境活動に対する意識の向上を図る。	排水水	全部署
流水音発生器の取り付け	女性用トイレに流水音発生器を取り付け、節水を行う。	排水水	本社
排水の再利用	使用済み排水を、水と混ぜて再利用する	排水水	再生パルプ製造部門
節水の徹底	地下水汲上量の適量化・バルブ等の漏水点検・節水を呼びかける掲示を行う	排水水	再生パルプ製造部門
PC節電	30分以上離席するときはモニターの電源をoffにする。⇒PCで自動OFFに設定長時間の外出時及び退社時はPCの主電源をoffにする。	炭酸ガス省エネ	全部署
電力の不要時off	①食堂(休憩所)の空調を朝8時ON～17時30分OFFにする。②休日の前日、最後に退社する者は空調・照明・事務機器等の電源OFFを確認する。③生産現場において、休憩中は自動圧縮梱包機の主電源を落とし、待機電力を節約する。	炭酸ガス省エネ	全部署
クールビズ・ウォームビズ	冷暖房に頼りすぎず、できるだけ服装により調整を図る。来客等外部に対しても受付にて案内文を設置し、活動への理解を呼びかける。	炭酸ガス省エネ	全部署
LED照明の導入	工場内の照明電球をLEDに変更。	炭酸ガス省エネ	全部署
天然ガスヒートポンプ式空調設備	クリーンな天然ガスを利用し、冷暖房時のエンジン余力で約2～4kW/台の発電した電気を建物に送る。(コージェネレーション)	炭酸ガス省エネ	本社
エアコン設定温度	エアコンの温度設定は集中管理リモコンにより夏季26℃以上/冬季20℃に設定する。	炭酸ガス省エネ	全部署
エアコン管理	定期的エアコンフィルターを清掃	炭酸ガス省エネ	全部署
熱線反射フィルム	事務所のガラスに断熱フィルムを貼り付け、空調効率を上げる。	炭酸ガス省エネ	本社
ロールカーテンの取付	熱線反射ガラスとともに、さらに空調効率を高めるためロールカーテンを設置。	炭酸ガス省エネ	本社
エレベーター・自動ドアの休日稼働停止	設定により休日においてはエレベーター及び自動ドアの稼働を休止し、無駄な電力使用量を削減する。	炭酸ガス省エネ	本社
設備機器の点検・補修	随時点検及び補修を行うことで、使用電力の軽減を計る	炭酸ガス省エネ	全部署
電力のクリーンエネルギー化	天然ガスやバイオマス、風力などによる発電を利用した新電力を導入。	炭酸ガス省エネ	全部署
蛍光灯のLED化	事務所及び工場の蛍光灯をLED化する。	廃棄物	全部署
ゴミの分別徹底	事務所内から排出される廃棄物を可燃ゴミ/空き缶/再生古紙に分別する。	廃棄物	全部署
廃プラスチック類の見直し	廃プラスチック類を古紙の圧縮梱包機を使用して圧縮し、リサイクル処理に回す。選別場において廃プラスチック類専用のカゴを設置し回収に努める。	廃棄物	全部署
禁忌品排除の徹底	得意先への禁忌品混入防止のための案内を行う	廃棄物	全部署

取組	具体的な実施手順		
禁忌品の分別	金属類・プラスチック類に分別し、リサイクル業者で処理をする	廃棄物	全部署
定期的自主点検	タイヤ空気圧等の定期的自主点検を行う。	炭酸ガス 省エネ	全部署
エコドライブの推進	アイドリングストップ	炭酸ガス 省エネ	全部署
電気リフトの導入	使用可能な範囲において、大気汚染に影響するガスを排出するディーゼルリフトから電気リフトへ切り替えていく。	炭酸ガス 省エネ	全部署
リフトの空ふかし禁止	リフト運転の際、必要以上にアクセルを吹かさない。	炭酸ガス 省エネ	全部署
回収ルート効率化	事前にパソコンで最短時間を検索し、回収ルートを決める	炭酸ガス 省エネ	全部署
ボイラーの省エネ運転	断続的な運転を行い、余熱を最大限に活用する	炭酸ガス 省エネ	再生パルプ 製造部門
重油燃料の削減	蒸気漏れの保守点検及び保温材の活用	炭酸ガス 省エネ	再生パルプ 製造部門
屋上緑化	屋上の一部に緑化スペースを設け、ビル内への断熱効果を高めるとともにヒートアイランド防止に貢献する。	炭酸ガス 省エネ	本社
公共交通機関の積極利用	遠距離出張時にはできるだけ鉄道等の交通機関を使用することを奨励する。	炭酸ガス 省エネ	全部署
地域清掃活動	定期的に事業所周辺地域の清掃活動を行う。	地域貢献	全部署
集団回収	集合住宅や学校等において集団回収を呼びかけ、地域に対し資源のリサイクル意識の向上を図る。	地域貢献	全部署
大正区内の企業回収における福祉寄付活動	大正区内の企業に紙のリサイクルを呼びかけ、回収した古紙の売上の一部を大正区の安全活動を行っている「子供見守り隊」や「子供110番の家」の活動資金に寄付する。	地域貢献	本社
工場見学の実施	事業所近隣の小中学生や婦人会などの地域住民の方々・団体向けにリサイクルの現場を知ることが出来る工場見学を受け入れる。	地域貢献	本社
ゴミ減らし隊	事業者等から排出される廃棄物の内、再生資源としてリサイクル可能な物を有価物として買い取れるよう分別等のアドバイスを行う。	地域貢献	本社
出前授業	小学校・中学校・高等学校の生徒を対象に、紙を含めたリサイクルの授業を学校の教室に赴き実施。牛乳パックからの郵便ハガキの製作体験なども行う。	地域貢献	本社
エコぼすと	本社のある大正区内に無人の古紙等再生可能な資源物回収施設を設置し、地域のリサイクル意識啓蒙を促進する。	地域貢献	本社
グリーンマーク/エコマーク商品の購入	事業活動の中で消費される物品について、環境負荷の少ないグリーンマーク/エコマーク商品を優先的に購入する。	その他	全部署
グラシン紙窓付封筒の導入	分別の必要のないグラシン紙窓付封筒を使用し、取引先等に対しても資源のリサイクル意識の向上に取り組む。	その他	本社
ノー残業デーの設置	毎週木曜日をノー残業デーとし、事務所は原則午後6時で業務を終了するように促す。(午後6時に事務所内の照明を落とす。)	その他	本社
大阪府グリーン配送	運搬に使用する貨物車につき、大阪府のグリーン配送登録をおこなう。(本社9台)	その他	本社
リサイクル封筒	高槻事業部で製造した再生パルプより作られた封筒を使用	その他	本社 再生パルプ 製造部門
難処理古紙のリサイクル	溶解処理施設にリジェクトソーターを設置して、従来リサイクル処理できなかった難処理古紙に対応	その他	再生パルプ 製造部門
環境商品のPR	高槻事業部内にて再生パルプ販売先の製品を陳列し、来場者へ環境商品をPR。リサイクルの重要性について啓蒙啓発活動を行う。	その他	再生パルプ 製造部門
CO2排出量レポートサービス	古紙等の回収から弊社工場での加工、製紙会社へ原料として搬入するまでの過程で発生するCO2排出量を毎月レポートという形で報告します。	その他	本社

6)環境目標の実績

※扱い数量による原単位評価

(1)全事業所環境データ取纏表 (2017年)

※1 廃紙を利用

※2 某印刷工場内での作業所で、子メーター設置が不可能なため。

	電力	水資源	ガス	軽油	ガソリン	重油	灯油	廃棄物	スラッジ	PPC用紙	ヤード売上高	ヤード扱い数量
※単位	kWh	m ³	m ³	L	L	L	L	kg	kg	kg	千円	t
本社	396733	1633	9963	141806	5423			31927		980	938633	41729
高槻事業部	1874520	305193	300	11360	4223	55300		3740	739610	※1	250477	4748
鳥飼	140151	354	169	33925	3443		701	4590		60	586765	23347
南港	19355	181		9317	0			2260		40	0	61935
東大阪	106812	554	154	34049	562			41465		80	460471	18309
京都	178152	499		47723	7082		220	16130		200	644441	31315
東京	65762	177	28	25732	1869		134	5940		40	280359	11360
厚木	74901	151	13	48330	2313			3920		60	208357	9205
名古屋	※2	メーター無し	メーター無し		560			940		40	62352	2477
北九州	190595	359	2.4	97327	1485			82670		860	569157	23726
福岡	182640	井戸水	0.0	60276	1463			28510		209	310834	15747
唐津	121179	井戸水	2.2	71277	2785			8710		80	261538	13131
平戸	34772	48		51830	1162			2480		40	122058	6315
熊本	102036	150		43069	3015			6780		80	226101	11161
鹿児島	59976	137	0	29666	3201			9440		160	164185	8105
合計	3547584	309436	10631	705685	38585	55300	1055	249502	739610	55381	5085728	282610
※単位	kWh	m ³	m ³	L	L	L	L	kg	kg	kg	千円	t
CO2排出量	1556575		31172	1851959	89582	149843	2630					

※単位 kg-CO2 CO2排出係数:業種別ガイドライン(産廃業者向け)2009年版に準ずる

※電力は複数の電力供給会社を採用し、各電力会社の排出係数(平成26年度)にて事業所ごとに算出し合計を出しています。 ※ガス:本社のみLNG

合計CO2排出量 3,681,759 kg-CO2 扱い数量比 13.03 kg-CO2/扱い数量

基準年度との比較 (削減目標値:基準年度比2%減 扱い数量比) ※化石燃料投入量 2.87 基準年度 2.82

	電力	水資源	ガス	軽油	ガソリン	重油	灯油	廃棄物	スラッジ	PPC用紙	ヤード売上高	ヤード扱い数量
※単位	kWh	m ³	m ³	L	L	L	L	kg	kg	kg	千円	t
基準年度	1259	128	4.41	250	15	804	0.57	90	313	21	4232352	255203
削減目標値	1234	125	4.32	245	15	788	0.56	88	306	20		
2017年度	1255	109	3.76	250	14	1165	0.37	88	262	20	5085728	282610
対比值	99.72%	85.76%	85.31%	99.86%	90.18%	144.88%	65.32%	97.86%	83.73%	95.37%		
評価	○	◎	◎	○	◎	△	◎	◎	◎	◎		

CO2排出量 CO2排出係数:業種別ガイドライン(産廃業者向け)2009年版に準ずる

基準年度	合計CO2排出量	3412842	kg-CO2	※扱い数量比	13.37	kg-CO2/扱い数量
2017年度	合計CO2排出量	3681759	kg-CO2	※扱い数量比	13.03	kg-CO2/扱い数量
	排出総量対比	107.88%		扱い数量比	97.42%	◎

(2) 全事業所基準環境データ (基準年度)

※1 廃紙を利用

※2 某印刷工場内での作業所で、子メーター設置が不可能なため。

	電力	水資源	ガス	軽油	ガソリン	重油	灯油	廃棄物	スラッジ	PPC用紙	ヤード 売上高	ヤード 扱い数量
※単位	kWh	m ³	m ³	L	L	L	L	kg	kg	kg	千円	t
本社	398143	1723	10535	119950	6258		0	29480		920	839374	36475
高槻事業部	1566354	321655	300	9480	3687	31300		3220	797640	※1	204161	3893
鳥飼	152582	381	191	30030	3162		957	3900		60	511726	21629
南港	19777	185		9311	0			2310		40	0	61744
東大阪	102773	527	162	29932	472			41820		80	340311	15328
京都	185616	447		42063	7823		294	16790		240	564835	29952
東京	69793	184	29	21666	1558		208	5300		40	257307	11318
厚木	79717	163	27	36717	2585			2140		40	149522	7032
名古屋	メーター無し	メーター無し			580			980		40	51389	2505
北九州	179700	302	9	84041	1602			78480		740	414466	19664
福岡	181507	井戸水	0	57681	1060			27720		192	292898	14704
唐津	121927	井戸水	2	71753	2483			8830		90	234539	12947
平戸	38014	52		51901	913			2540		60	118580	6308
熊本	116796	195		43956	3256			6720		80	253244	11704
鹿児島	59976	137		29666	3201			9440		160	164185	8105
合計	3212699	325814	11254	638147	38639	31300	1459	230230	797640	52437	4232352	255203
CO2排出量	1527141		32832	1674714	89707	84811	3636					

※単位 kg-CO2 CO2排出係数:業種別ガイドライン(産廃業者向け)2009年版に準ずる

※電力は各電力会社の排出係数を採用(平成25年度) ※ガス:本社のみLNG

合計CO2排出量

3,412,842 kg-CO2

扱い数量比

13.37 kg-CO2/扱い数量

7) 当年度(2017年度)の取組状況の評価

省資源	コピー用紙の使用量は前年度に引き続き目標を達成することができた。引き続き効率的な利用に努める。
排水	大部分の事業所で目標をクリアできた。継続して節約に努める。
炭酸ガス	重油については高槻事業部にて受注量増加及び熱源を必要とする品種の生産増加などで使用量が増えてしまった。但し、扱い数量が前年度より大きく増えたため、全体的には削減目標を達成することができた。
廃棄物	全体的には目標どおり順調に削減できた。継続して可能な限りリサイクルするなどして削減に取り組む。
地域社会	継続してリサイクル推進による地域のゴミの減量に貢献できている。本社ではイベントでの出展や工場見学・職場体験などを行い、地域住民の方々と交流を深めることが出来た。

事業所別の削減度 扱い数量比(増加はマイナス値)

	電力	水資源	ガス	軽油	ガソリン	重油	灯油	廃棄物	スラッジ	PPC用紙
本社	12.90%	17.16%	17.33%	-3.34%	24.26%			5.34%		6.89%
高槻事業部	1.87%	22.20%	18.00%	1.74%	6.08%	-80.45%		4.76%	23.97%	※1
鳥飼	14.91%	13.81%	17.91%	-4.66%	-0.86%		32.14%	-9.03%		7.36%
南港	2.13%	2.16%		-0.06%				2.16%		0.00%
東大阪	12.99%	11.99%	20.38%	4.77%	0.36%			16.99%		16.28%
京都	8.20%	-6.77%		-8.52%	13.41%		28.34%	8.11%		20.29%
東京	6.12%	4.16%	3.43%	-18.33%	-19.55%		35.82%	-11.66%		0.37%
神奈川	28.22%	29.23%	64.59%	-0.56%	31.65%			-39.94%		-14.59%
名古屋 ※2	メーター無し	メーター無し			2.36%			3.00%		-1.13%
北九州	12.10%	1.48%	77.40%	4.02%	23.14%			12.70%		3.68%
福岡	6.04%	井戸水		2.42%	-28.90%			3.96%		-1.76%
唐津	2.01%	井戸水	-27.60%	2.06%	-10.59%			2.74%		12.36%
平戸	8.63%	7.79%		0.25%	-27.17%			2.47%		33.41%
熊本	8.39%	19.33%		-2.75%	2.92%			-5.80%		-4.87%
鹿児島	-6.10%	7.87%		-23.78%	21.25%		-47.60%	13.15%		-31.60%

【目標：高槻事業部及び鹿児島事業所は2016年度基準で1%削減、その他事業所は2015年度基準で2%削減】

※1 廃紙を利用のため購入実績が無く評価不能 ※2 某印刷工場内での作業所で、子メーター設置が不可能なため。

事業所別の削減度評価 ◎:目標達成 ○:削減できたが目標には未達 △:基準年度より増加・同値

	電力	水資源	ガス	軽油	ガソリン	重油	灯油	廃棄物	スラッジ	PPC用紙
本社	◎	◎	◎	△	◎			◎		◎
高槻事業部	◎	◎	◎	◎	◎	△		◎	◎	※1
鳥飼	◎	◎	◎	△	△		◎	◎		◎
南港	◎	◎		△				◎		○
東大阪	◎	◎	◎	◎	○			◎		◎
京都	◎	△		△	◎		◎	◎		◎
東京	◎	◎	◎	△	△		◎	△		○
神奈川	◎	◎	◎	△	◎			△		△
名古屋 ※2	メーター無し	メーター無し			◎			◎		△
北九州	◎	○	◎	◎	◎			◎		◎
福岡	◎	井戸水		◎	△			◎		△
唐津	◎	井戸水	△	◎	△			◎		◎
平戸	◎	◎		○	△			◎		◎
熊本	◎	◎		△	◎			△		△
鹿児島	△	◎		△	◎		△	◎		△

8)環境関連法規への違反、訴訟等の有無

チェック担当



下記の法規につき自主的にチェックしたところ、弊社本社において過去5年間重大な法規違反はありません。また、これに係る訴訟もありません。

適用法令	関連内容
大気汚染防止法	自動車排ガスの排出抑制
自動車NOx・PM法	自動車排出窒素酸化物の排出抑制措置
騒音規制法	機械類の騒音値
振動規制法	機械類の振動値
悪臭防止法	保管廃棄物の適正な管理
水質汚濁防止法	水質の保全・生活廃水対策の実施・協力
瀬戸内海環境保全特別措置法	//
廃棄物処理法、その他地方公共団体で定める条例等	廃棄物の減量化・適正な処理等
再生資源の利用の促進に関する法律	
家電リサイクル法	
容器包装リサイクル法	
食品リサイクル法	
建設リサイクル法	
PCB特別措置法	
バーゼル法	特定有害廃棄物の輸出の規制
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの排出を抑制し地球温暖化を防止
エネルギーの使用の合理化に関する法律	エネルギーの使用の合理化
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正管理・点検
消防法	法令に適合する消防設備の定期的な点検・報告

9)環境教育・緊急事態への対応

本年度実施済みの環境教育については下記の通りです。

教育事項	教育内容
環境活動の必要性、環境経営について	代表者より管理者等に向けて社員一同で環境活動に取り組む目的、意義を説明
EA21活動の概要、実施における教育	全社への認証範囲拡大にあたり、EA21認証の概要、取組内容の説明
廃棄物処理法に関する講習	平成29年度の法改正について
緊急事態における訓練	火災等の環境に大きな影響を及ぼす緊急事態における対処について訓練を行う

※消火訓練の様様



なお当部門では環境上想定される緊急事態について対応マニュアルを定め、災害リスクの低減に努めています。

10) 廃棄物関係登録及び許可取得状況

1、廃棄物再生事業者登録 ※許可要件ではない。

管轄	番号	継続届	種類
大阪府	第39号	平成25年度	古紙の再生
京都府	第56号		古紙の再生
福岡県	第27号		古紙の再生
	第28号		古紙の再生
佐賀県	佐賀県指令15廃第20号		紙くず
熊本県	再生第57号		古紙
鹿児島県	H27-01		古紙の再生に適する圧縮・梱包

2、産業廃棄物収集運搬業許可

管轄	番号	許可年月日	有効期限	許可品目
大阪府	2700037595	平成20年11月13日	平成30年11月3日	紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、がれき類、廃プラスチック類
大阪市	第6610037595号	平成28年5月2日	平成33年4月30日	ゴムくず、ガラスくず、がれき類、紙くず、木くず、繊維くず、廃プラスチック類、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、金属くず(以上、積替・保管含む)
京都府	2610037595	平成27年7月22日	平成32年7月21日	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類(以上、積替・保管含む)
兵庫県	第02808037595号	平成28年12月19日	平成33年12月18日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
奈良県	第02900037595号	平成25年3月24日	平成30年3月23日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類
神奈川県	1402037595	平成29年8月30日	平成34年7月11日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、がれき類
山口県	第03508037595号	平成27年6月22日	平成32年6月21日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
福岡県	4000037595	平成28年1月19日	平成33年1月18日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類
佐賀県	4105037595	平成28年7月10日	平成33年7月9日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類(以上、積替・保管含む)
長崎県	第04200037595号	平成21年2月19日	平成31年2月18日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類
熊本県	第04305037595号	平成21年11月2日	平成31年11月1日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類
鹿児島県	第04606037595号	平成27年3月6日	平成32年3月5日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

※産業廃棄物処理事業計画の概要(事業主体は古紙の再生であり、産業廃棄物の処理は極少量の取扱い)

建設現場より発生する混合産業廃棄物を収集し、中間処理業者へ搬入する。

印刷業者より発生する廃インク缶及びその内容物である油性若しくは水性インク液を収集し、中間処理業者へ搬入する。

3、施設等の状況

(1) 車両関係

事業所	貨物車	塵芥車	営業車	フォークリフト	合計
本社	14台	6台	5台	6台	31台
高槻事業部	4台	0台	1台	3台	8台
鳥飼事業所	3台	2台	1台	4台	10台
南港ヤード	0台	0台	0台	2台	2台
東大阪事業所	3台	2台	1台	4台	10台
京都事業所	14台	5台	1台	3台	23台
東京事業所	4台	3台	1台	4台	12台
神奈川事業所	3台	5台	2台	3台	13台
北九州事業所	5台	9台	1台	3台	18台
グリーンセービング福岡	9台	6台	1台	4台	20台
唐津リサイクルセンター	5台	7台	1台	3台	16台
平戸リサイクルセンター	3台	7台	0台	2台	12台
熊本リサイクルセンター	7台	5台	2台	2台	16台
名古屋営業所	0台	0台	0台	3台	3台
鹿児島事業所	4台	3台	2台	2台	11台
合計	74台	57台	17台	46台	194台

(2) 機械装置関係

機械名	保有台数
古紙自動圧縮梱包機	17台
トラックスケール	16台

(3) 再生パルプ製造部門機械装置関係

ハイトラパルパ、原料溶解ター、除塵スクリーン、MTフローター、漂白ター、抄紙機、排水処理沈殿槽

(4) 産業廃棄物積み替え保管施設

施設住所	許可面積	保管上限量	積上可能高さ
大阪市大正区三軒家東2-9-10	117m ²	56m ³	3m
京都府八幡市岩田六ノ坪59-1	2219.82m ²	12.24m ³	2.4m
佐賀県唐津市梨川内字河内山1079-106	9.6m ²	11.4m ³	2.85m

(5) 産業廃棄物収集運搬量

1) 企業情報 事業規模の欄に記載

(6) 産業廃棄物処理料金

個別案件の見積によります。

11)地域コミュニケーション

平成29年6月には本社(大阪市)の地元、大正東中学校の学生2名に対して職場体験学習を行いました。紙の選別作業などの体験を通してリサイクルの大切さを学ぶとともに、「働く」ということについて多少なりとも学ぶことができたのではないかと思います。今後も地域に根付く企業として地域社会に貢献していきます。



大和紙料 紙

この度は、職場体験学習をさせていただきありがとうございました。

今回の体験学習の中で、紙の分別をしたことが一番しんどくとも印象に残っています。分別中に足をとったけなのに、ばくそうまではてくれたのがうれしかったので一番印象に残っています。毎日あんなにしんどいことをしているのだなと気づかされました。そしてこの体験の中で多くの大人とふれあえたことが本当に貴重な体験をいっぱいできて多くのことを学習できたと思います。迷惑をかけたおれませんが、貴重な体験をいっぱいさせてくれたこと、感謝しています。

ありがとうございました。

今回の職場体験学習で学んだことをこれからの学校生活にいかしていきます。

平成29年6月13日

大阪市立大正東中学校2年

【エコぼすと】

古新聞・古雑誌・段ボールなどの古紙や空き缶のリサイクルを目的とした、無料の受け入れ回収できる施設です。

無料でいつでも利用していただけるため、受け入れ時間や場所など、今までいろいろな制約があった古紙回収のハードルを下げることができ、より気軽に古紙リサイクルに貢献できます。



12)代表者による全体の評価と見直し

2017年度の環境活動内容について、重油使用量が大きく増加した他は概ね目標を達成することができた。

重油使用量は再生パルプ製造工場である高槻事業部にて使用しており、受注量が増えたこと、並びに熱源を多く必要とする品種(難処理古紙)が増えたことが原因とのことであった。難処理古紙のリサイクルは一般の製紙会社では取扱いが難しく廃棄処分されることも多いが、少し手を加えることでリサイクルが可能になり、資源の有効活用という面で非常に意義がある。また現在高槻事業部では従来商品に加えて販路拡大のため新たな商品開発に積極的に取り組んでおり、今後も継続していく必要があるため、重油の使用量については基準の見直しを行うこととする。

次年度も引き続いて環境活動に取り組み、更なる活動の活発化を目指したい。

平成29年11月1日

